私たちはノレのよう

第1部　技能実習のひずみ ①

五色（いつついろ）のメビウス
ともに はたらき
ともに いきる
1

日本人と待遇差「切ない」

高原野菜産地で厳しい労働

トラクターのライトが放つ光の周辺で、淡い光が点々と闇夜に浮かぶ。八ケ岳連峰と秩父山地に囲まれた標高千㍍超の南佐久郡川上村。国内生産量トップを誇るレタスの収穫は、日光で葉が傷まぬよう、午前2時に始まる。

出荷最盛期を迎えた2020年8月。仲間からヒゥイとの愛称で呼ばれるベトナム人男性(35)は他の農作業員と同様、頭部に付けたランプで照らしながら、レタスの根元を包丁で切り続けた。作業は時間との闘いだ。手にしたレタスのサイズを確かめながら箱詰めし、トラックの荷台に載せる。「急げ、急げ」。一緒に未明から働く農場主の50代男性にせかされ、午前9時まで作業を続ける。

仕事はまだ終わらない。夕方まで、苗の植え付けや肥料やりなどをする。朝と昼に計3時間の休憩があるが、日中、睡魔に襲われる。作業中、うとうとしていると「やる気がないならやめろ」。農場主の大声で目が覚める。

夕方、プレハブ造りの寮に戻る。午後8時ごろに横になるが、なかなか寝付けない。「いつも寝不足」。それでも翌日の午前1時半には起きなければならない。

長袖シャツにジーンズ。雨がっぱを着ても体がぬれ、体温が奪われていく。村内の別の農場で働くベトナム人のティンさん(22)＝仮名＝は、20年7月の長雨にくじけそうになった。夏場、激しい雷雨に見舞われた。稲光と雷鳴が迫っても、農場主の男性から指示が出るまで避難できなかった。

7月から10月まで働き、休日は9月末に1日のみ。雨にさらされて赤くふやけ、痛みが走る手先をさすりながら我慢した。

ベトナム人農作業員は他に2人。夕方、農機具庫の2階にある3人1部屋の寮に引き上げた後も翌日用の段ボール箱を組み立てる。だが畑で一緒に働く日本人男性アルバイトがこの「残業」に加わることはほとんどない。日本人向けの宿舎は新しく、1人1部屋に住み込んでいる。「特別扱いなのか…」

午前9時からの休憩時間に農場主がベトナム人3人に配るのも1人1個のパンだけ。一方、日本人には飲み物や数種類のパンが支給される。ある時、ベトナム人の同僚が問い掛けた。「なぜ私たちにジュースはないんですか」。農場主は無言のままだった。

ヒゥイさんも、村内で働くベトナム人仲間から日本人との待遇の違いを聞かされていた。雨の日、早朝の作業に日本人アルバイトは出てこない。重い荷物は外国人が背負う。時給850～900円余だが、日本人は千円以上…。

「切なく悲しい」

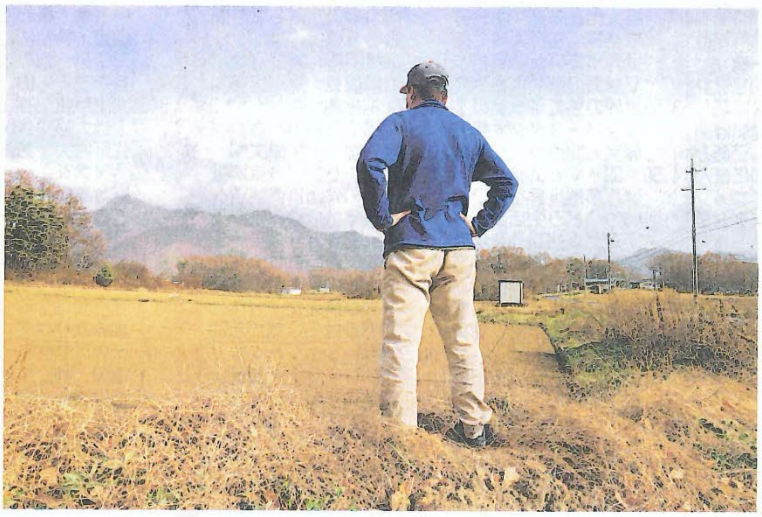
ただ、それを表立って口にしない理由があった。

20年10月、許可なく南佐久郡内の農家でベトナム人を農作業に従事させたとして、大阪市の「ホアンアン合同会社」の役員ら3人が職業安定法違反（無許可労働者供給事業）容疑で県警に逮捕、その後起訴された。この年の夏場に川上村や隣の同郡南牧村に送り込んだベトナム人は100人を超えた。技能実習先から失踪していたヒゥイさんとティンさんも同社が派遣。指示されたとはいえ、ともに在留カードを偽造していた。

生きるためには、嫌でもやらなくてはいけない時―。ヒゥイさんはこう思う。「私たちは日本ではノレ（奴隷）のようだ」

◆

外国人技能実習制度は本来、国際貢献のため途上国の若者らを最長5年に限って受け入れ、技術を移転する制度だ。だが実際には、人手不足にあえぐ信州をはじめとする地方の中小企業や農業を人的に下支えする仕組みとなっている。建前と現実の間で生じる「ひずみ」は、新型コロナ下でより目立つようになった。第1部は、傷み、さまよう若者たちを追うことから始める。



高原野菜の収穫期を終えた川上村の畑を見つめるヒゥイさん＝2020年11月20日、川上村

知る 見る 考える

ホアンアン合同会社

起訴状によると、代表社員の柴田由起子被告ら3人は、新型コロナの影響で技能実習生が来日できず人手不足に陥った、南佐久郡川上村、南牧村などを含む佐久地域の農家に対し、国の許可を得ずに国内居住のベトナム人を送り込んだとしている。小諸労基署から労働基準法（中間搾取の排除）違反の疑いで書類送検され、佐久地域の農家約120戸に約230人のベトナム人をあっせんして、農家が支払う賃金から中間搾取し、総額約2100万円の利益を得た疑いも持たれている。2020年9月、南牧村の農家に派遣した元実習生ら2人が起こした傷害事件がきっかけとなり、本格的な捜査に発展した。

ご意見・情報をお寄せください

連載へのご意見、ご感想をお寄せください。情報提供もお待ちしています。〒380―8546　長野市南県町657　信濃毎日新聞社編集局「五色のメビウス」取材班（ファクス026・236・3017、メールはmoebius@shinmai.co.jp）

2021年3月17日　衆議院外務委員会 配布資料①　　日本共産党　藤野保史
出典：信濃毎日新聞　2021年1月5日

外国人技能実習 県内の監理団体

実習先役員「兼務」57%

監査 骨抜きの恐れも

信濃毎日新聞は7日、外国人技能実習制度の県内受け入れ監理団体を対象に行ったアンケート結果をまとめた。監理団体の役員と実習受け入れ企業の役員を「兼務している」と答えた団体が57%に上った。監理団体は受け入れ企業を指導、監査する立場。専門家は、双方の役員が重なれば、監査などが骨抜きになる恐れがあると指摘している。

本紙アンケート・東大永吉准教授協力

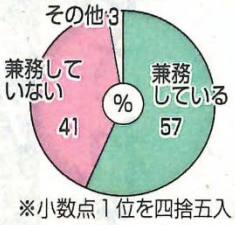
五色のメビウス（いつついろ）
ともに はたらき
ともに いきる

特集23面に

本紙は東京大社会科学研究所の永吉希久子准教授（社会学）の協力を得て質問を作成。2020年12月下旬から21年1月にかけ、県内に事務所がある監理団体（57団体）に質問票を送り、37団体（65%）が回答した。

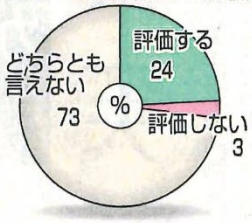
実習先との役員を兼務している21団体のうち、弊害を感じると答えた団体は10%（2団体）。それぞれ「監査が形だけになり、チェック機能が働かない」「（監理団体を監督する）外国人技能実習機構から疑われる」とした。

監理団体と企業の役員、兼務は



※小数点1位を四捨五入

技能実習適正化法に基づく実習制度の評価

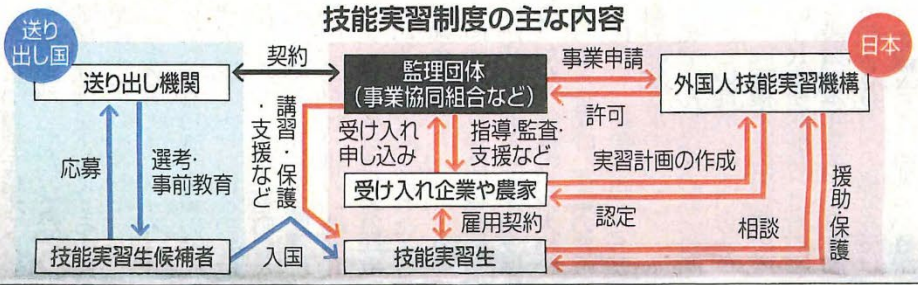


双方の役員を兼務していると回答した団体のうち、弊害を「感じない」と答えた団体は81%（17団体）に上った。役員以外の監理責任者や、外部監査法人の配置で適正な監理が保たれる―などとしている。

一方で「（監理団体にとって）受け入れ企業はお客さまで、かつ指導・是正を行う二面性があり、立ち位置の難しさがある」と明かす団体もあった。

監督機関の外国人技能実習機構によると、監理業務を統括する「監理責任者」は、受け入れ企業との利益相反の恐れがない責任者の選任を求めているが、役員の兼務は禁止されていない。

技能実習制度の主な内容



知る見る考える

監理団体　外国人技能実習生の日本側の受け入れ窓口。非営利の事業協同組合や商工会、農協などが担い、傘下の実習受け入れ（実習実施）企業に対する定期監査や、実習生の入国後講習、相談対応などに当たる。2017年施行の技能実習適正化法で、実習企業の監督強化のため、監理団体の運営が届け出制から許可制になった。実習生の受け入れでは他に、企業が外国の現地法人や取引先企業の社員を直接受け入れる「企業単独型」もある。

本紙は質問作成に当たり、外国人労働者を支援するNPO法人「移住者と連帯する全国ネットワーク」（東京）の鳥井一平代表理事の意見も参考にした。鳥井氏は「監理団体と実習実施企業が一体としてビジネスを構成する制度の象徴だ」と分析。全国でも同様の構図があるとして、監査などが「なれ合い」になる可能性を指摘している。

永吉氏も「監督・指導するとされる立場との兼任が許される制度設計は、問題の温床となり得る点が無視できない」としている。

アンケートでは、17年11月施行の技能実習適正化法に基づき同機構などが導入された現行制度の評価も聞いた。現行制度を「評価する」が24%（9団体）、「評価しない」が3%（1団体）にとどまったのに対し、「どちらとも言えない」が最多の73%（27団体）。明確な見方を示さない団体が目立った。

（小数点1位を四捨五入した）

2021年3月17日　衆議院外務委員会 配布資料②　　日本共産党　藤野保史
出典：信濃毎日新聞　2021年2月8日

日越人材育成交流会inハティン

2018/10/16

10月13日，在ベトナム日本国大使館後援の技能実習や留学に関するセミナーである「日越人材育成交流会inハティン」が，日越外交関係樹立45周年記念事業の1つとして，ハティン省で開催されました。日越人材育成交流会は，技能実習や留学についての適切な情報を発信し，日越の人材育成交流を促進するために，NPO法人日本国際親善協会及び公益財団法人国際労務管理財団が共催（在ベトナム日本国大使館，在日本ベトナム社会主義共和国大使館後援）で開催したものです。

当日は，留学や技能実習での訪日を希望する学生・生徒，送出機関関係者，教育関係者等約240名が参加しました。

大使館から，適切な技能実習と留学が行われるように期待を込めて，（1）出稼ぎ留学は行わない，（2）ブローカーは利用しない，（3）高額な手数料は払わない，という3点の注意喚起を強調して，挨拶を行いました。

大使館では，今後も様々な機会を通じ，技能実習と留学の適正化に向けて，正確な情報発信に務めてまいります。

（大使館挨拶概要）

本日は，日越人材育成交流フォーラム in ハティンにおいて，お話をする貴重な機会を頂きまして誠にありがとうございます。在ベトナム日本国大使館を代表いたしまして，挨拶とともに，留学と技能実習についての正しい情報発信をさせて頂きます。

留学と技能実習については，正しい情報発信が何より重要です。そのため，この日越人材育成交流フォーラムは，ハティン省，そしてベトナムにとって素晴らしい取組です。

フォーラム開催にご尽力いただいたNPO法人日本国際親善協会（JIFA：ジャイファ），IPM公益財団法人国際労務管理財団（IPM：アイピーエム），ハティン省の関係者の皆様に心から敬意を表します。

本日は，まとめを含め4点お話します。

1つ目は，広範な戦略的パートナーシップの基，日越両国は過去最良とも言える大変良好な関係を築いています。要人の往来も多く，昨年は天皇皇后両陛下の初めてのベトナムご訪問，安倍総理大臣の2度の訪越があり，今年は急逝されたクアン国家主席が5月に国賓として日本を訪問しており，先週はフック首相が日本を訪問し，日越首脳会談が行われています。

本年は，日越両国は外交関係樹立45周年を迎えました。この日越人材育成交流フォーラムも，外交関係樹立45周年記念事業の一環として開催して頂いています。

要人の往来だけでなく，教育，文化，経済等様々な分野での両国の交流が盛んです。現在，ベトナムの在住日本人の数は，約16,000人とこの数年で倍増しており，一方，日本在住のベトナム人の数は現在，29万人を超えて国別3位となっています。そのうち，技能実習生は，一昨年中国を抜き国別で1位となり，本年6月で13万人を超え，2010年と比べ17倍に急増しました。留学については，中国に次いで国別2位で，本年6月で8万人を超え，2010年と比べ16倍に急増しました。

日越両国の交流の拡大は大変喜ばしいことであり，多くのベトナムの若者が日本で働いています。日本では少子高齢化，労働力不足が進んでいるので，心強いところです。

しかし，留学・技能実習の急増により問題も生じています。日越関係に影を落とすものです。

技能実習生の失踪者数はワースト1位で，全体の半数以上をベトナムが占めています。不法残留者も年々増加しています。

そして何よりも，犯罪の増加が問題です。昨年の刑法犯の検挙件数はベトナムがワースト1位で対前年68%増と大幅に悪化しています。

ベトナムの若者は夢や希望を抱いて訪日しており，決して最初から犯罪をしようと思って日本に行っているのではなく，犯罪をせざるを得ない状況に追い込まれています。多額の借金を抱え，日本に行っても借金が返せず犯罪に走る。

ベトナム，そして日本において，悪徳ブローカー，悪徳業者，悪徳企業がばっこしており，ベトナムの若者を食い物にしています。ベトナムの若者の人生をメチャクチャにしています。

日本におけるベトナムのイメージ，そしてベトナムにおける日本のイメージが悪化することを懸念しています。本問題は大使館にとって最重要課題の一つです。

2つ目が適正な留学の勧めと留意事項です。

まずは，留学，技能実習ともに，甘い言葉に乗せられて悪徳業者にだまされないように気をつけてください。大使館としても，正しい情報発信に努めていますので，正確な情報を入手してください。

「勉強しながらでも，アルバイトで1ヶ月何十万円も稼げる。」「留学中は，アルバイトで得た給与で，学費と生活をカバーでき，国に仕送りができる。」こんな嘘の情報に惑わされないようにしてください。

家賃を含めた大学生の平均生活費は10万円以上で，さらに，生活費のほかに学費がかかります。日本語教育機関，大学とも，入学金を含めずに学費のみでも年間約50～150万円はかかります。 生活費さえ賄うことが難しいアルバイト代で，学費と生活の費両方を賄うことは，非常に困難です。

そもそも留学は，生活費をまかなえる十分な資産，奨学金などを有することが必要です。

2021年3月17日　衆議院外務委員会 配布資料③　　日本共産党　藤野保史
出典：在ベトナム日本国大使館ホームページ